

第 294 回 昭和の森自然観察会

水辺の植物

井上智史(千葉市)

日 時：2016 年 6 月 12 日(日) 13 時～15 時 天候：曇り

参加者：一般 11 名(大人 9 名・子ども 2 名) 指導員：10 名

担当指導員：晝間初枝・井上智史

梅雨入り一週間後の、太陽が顔を出し蒸し暑さを感じる中、水辺を見て廻りました。

まず、池の中に生えている抽水植物であるヨシ、ガマ(コガマ)、ショウブの観察。植物は遠い昔、水中(海中)で誕生し、長い年月を経て陸上に進出し適合してきました。その中から再び水辺・水中に戻ったこれらの植物たち。水辺の暮らしに適したツクリを探ろうと、茎や葉の構造を観察しました。ガマの葉の段ボールのような構造は、軽くて丈夫そうで、なかなか興味深いです。そして、ガマと言えば、いなばのしろうさぎ。そのお話とともに、止血作用があるという黄色い花粉(とってもサラサラ)を触っていただきました。

ハナショウブ園には、色とりどりのハナショウブ。似ている 3 つのアヤメ科の花、ハナショウブ、アヤメ、カキツバタの見分け方を写真も使って示しました。

田んぼでは浮遊植物の観察。田んぼのウキクサと、晝間さんが用意したイチョウウキゴケ、ホテイアオイの、それぞれ浮くためのヒミツを確認しました。

下夕田池には浮葉植物のスイレン。午前の下見時にはきれいに咲いていた花が、午後 3 時近くとあってほとんど閉じてしまっていたのは残念でしたが、用意したハスの葉や写真も使って、ハスとスイレンの違いを紹介しました。

参加者の声として、植物の断面の観察はあまり経験がなく、今回の観察会では仕組みがよくわかりとても面白くためになった、と複数の方からコメントいただきました。(観察のためにスイレン等植物を採取することは公園管理事務所の了承を得ています。)



ハナショウブ園の木道をゆく スイレンの茎を見る